第29号
NPO 法人子どもたちの生きる力をのばすネットワーク
Newsletter 2022（令和4）年12月 08日　発行

のばす会・ネットワーク便り

本部事務局　〒 475-0817　愛知県半田市東洋町 1-8　アイプラザ半田 109，110 号室
代表理事　伊藤　敦
080-1622-5717
E-mail　nobasukai1993@gmail.com
http:www.f-school.jp/nobasukai
http://f-school.jp/nobasukai/
https://www.facebook.com/nobasukai

親の会座談会開催

9 月 18 日に 9 名、10 月 23 日に 7 名の保護者と、のばす会スタッフで臨床心理士の米村高穂先生をお迎えして、座談会が開かれました。

初回は自己紹介や質問・相談を、二回目は初回に参加した保護者も多かったため、前回からの近況や思うことを自由に語り合いました。先生からは、目に見えるものだけでなく、言動の中にある気持ちに耳を澄ませる大切さと、子どものタイミングで話を聞き入れられるように心に余裕を持つこと、そのために親自身のための時間を持つことも同様であることなどアドバイスしてくださいました。また、親と子がそれぞれに相談できる人や場を持てるように、必要に応じた専門機関・窓口の紹介や相談時の留意点などを話してくださいました。

来春、卒業や入学がある保護者が複数いたので、学校選びや新生活の話もありました。このところ我が子の先行きの不安から、先回りした声をかけてしまいがちだったと反省しました。先ずは『大事に思っている、心配している』と伝えてみようと思いました。

親の会　吉田　典子

スタッフ研修会　テーマ『カウンセリングマインドを生かした関わり方』

桑原知子著書「教室で生かすカウンセリングマインド・アプローチ」を使って、第 1 回 8/1(月)カウンセリングマインド、第 2 回 8/8(月)不登校、第 3 回 8/29(月)発達障害の各テーマに沿って話し合い、内容を深めることができたと思う。このようなスタッフを対象とした研修会は初めての試みであった。夏休み期間中という事もあって、比較的余裕を持って参加することができた。毎回 10 名前後の参加があった。本の内容に沿って参加者の体験談やその事に関する感想などで話が盛り上がった。講師の臨床心理士米村高穂さんがご自分のクライアントとのやり取りなどを交えて、大変わかりやすく、我々スタッフにも興味深いお話を伺うことができた。また、話しやすい雰囲気で活発な意見交換ができた。各回で、心に残ったことを短くお伝えします。第 1 回　“もの”ではなく“人”として接するという事　関係性（下心をもってはいけない）という事、不登校の子を変えるではなく、共感して生活する。強くこうしたいという事を持たない。第 2 回　原因を明らかにして、それを解消しようとしても（ものの修理をしようとしても）それは人間には当てはまらない。不登校経験者が社会の中で堂々と生きている現実を数多く見ることができる。第 3 回　発達障害の子の特性が自分の中にもあるものとして、「理解」していくことが大切。

この研修を受けて、のばす会の長い積み重ねの中で既に実行されていることも多くあるが、自分の言動と対応を少し反省し、ゆったりのびのびと生活していこうと強く思った。

スタッフ　石黒　辰彦

八千穂の窓

絵本「ももいろのみみのぞう」の紹介

小学校の読書クラブでこの絵本を大型紙芝居にし、物語の持つ不思議な世界や友だちを大切にする心を子どもたちに伝えようと思いました。当時いじめで困っている時でした。

桃色の耳を持つ大きな象が隠れているところへ子象がやってきて一緒に遊ぼうと声をかけます。でも大きな象は、「耳が桃色だからはずかしくて遊べない。」という。すると子象は「君はステキだよ、僕の友だちに紹介したい。」とジャングルへ連れて行く。ところが周りの動物たちは子象に連れられてと、バカにする。そこで子象は「ぼくの友だちは他の国からきたすごい象なんだ」と力説する。さらに子象は「ぼくの友だちの耳をみてごらん、不思議なことにこの大きな象の桃色の耳は、ジャングルも明るい桃色に代えてしまうんだよ。」と言ったのでした。大きな象の存在は、動物たちにとって最後は大切な友だちだと気づくのでした。

伊藤　八千穂

フリースクールは今

9 月までは出席者が少なく、午後はスタッフのみの日も多くありましたが 10 月に入り、体験者、入会者が増え、現在およそ小学生 3 人中学生 4 人ＯＢ2 人が来ています。だんだん賑やかになってきました。

午前中は自分のやりたい勉強、読書、スタッフとゲームなどをして過ごし、午後はスタッフとゲームをしたり、お絵かきや手芸など好きな趣味をしたりする子とまちまちです。寄付によりゲームの種類も増え、対戦を楽しんでいます（スタッフにとってはルールを理解するのに大変なものもありますが頑張っています）。

10 月 25 日には南吉記念館へみんなで行き、記念館見学、童話の森でのウォークラリー（宝探し）、鬼ごっこをして楽しみました。好天にも恵まれ、みんなで昼食も戸外で食べ、とても楽しい一日になりました。
コロナの影響でずっと行けなかった社会見学ですがこれからもこういう機会があるといいですね。

スタッフ　新村　由美子

規則やルールってどこまで必要なの！？

臨床心理士　米村　高穂

規則やルールってどこまで必要なのかときかれたら、皆さんはどのような考えをお持ちでしょうか？学校では、規則の是非がずっと話題になっていますね。「あんなものがあるから、子どもたちがのびのびできないのだ！」という意見から、「いや！規則がなければ、わがまま放題になる！ある程度は必要！」という意見まであるかと思います。皆さんは、客観的にどう思いますか？私も含めて、皆さんはどちらかの意見に多少肩を持つにしても、反対の意見を完全に否定しきるのは難しくありませんか？両者の意見に一理あると言う方がほとんどでしょう。

カウンセリングの中では、規則や枠組みは「構造」と言って、効果を発揮するために大変重要です。少し意外かもしれませんが、カウンセリングでは、人間は制限のない自由よりも、ある程度制限や枠組みがある中で自己表現をする方が安心できるという考え方をします。

ちなみに製造業では、「標準作業」と言って、作業手順が決められていて、作業員の個人の考えで変更することは禁じられています。ルールを守らせる理由はシンプルです。それは、①社員にケガをさせない、②これまでの試行錯誤の結果、そのルールを守らせることが良い製品を確実に作る最短ルートであることが理由だそうです。いずれにしても「社員を守る」ことが目的です。

つまり、規則はあくまで「方法」であり、「目的」ではないということです。しかし私たちは、目の前のことに一所懸命になっていると、規則を守らせることが目的となっていることがありませんか？上記のカウンセリングで言えば、規則は状態とともに検証し、アップデートしていく必要があります。私たちは、何のためにルールや規則を設けるのか、その目的を時折確認してみることが大切だと思います。

学！コラボ２０２２開催

今年度より半田市の新事業として、市内の高校生が応援したい市民団体を選び、投票数に応じて協賛企業からの寄付金が贈呈される「学！コラボ 2022」に当団体がエントリーし、限定３団体に選ばれました。

10 月 25 日に半田商業高校、総合ビジネス科 2 年生 49 人に団体の活動内容をプレゼンテーションしました。「フリースクールという居場所の中で」というタイトルで、7 分のプレゼン時間内に、社会課題、団体の目的、活動紹介、のばす会の現状、支援の様子、卒業生の進路、高校生ができることをお話しさせて頂きました。

11 月 2 日に投票結果の発表があり、のばす会には 24 票投票して頂き、協賛企業の三菱 UFJ 銀行半田支店様、八洲建設様から寄付金の贈呈式がありました。その後、のばす会に投票した高校生と一緒に意見交換し「自分事として考えることができた」「のばす会の活動を伝えていきたい」という感想がありました。

限られた短い時間の中で、高校生に団体が活動を続ける目的が伝わり、共感を得ることは難しくもありましたが、今回このような貴重な機会を頂けたこと、この事業を通して、のばす会の存在意義をより多くの方に知ってもらえたことに感謝いたします。ありがとうございました。

スタッフ　伊藤　里香

サービスラーニングの学生と過ごした夏休み寺子屋

今年度の夏休み寺子屋は､7 月に 3 日間､8 月に 4 日間実施し、小中高生 16 名が参加しました。夏休みは例年、日本福祉大学の大学生がサービスラーニングの実習として、今年度も 4 名が参加してくれました。

7 月のお楽しみとして、講師を招いて手品ショーを企画しました。輪ゴム、ペン、ペットボトルなど身近な物で出来る手品を披露してもらい、自ら実践出来るように、たねあかしも教えてもらえました。子ども達からは魔法をかけているかのように見えて、不思議でわくわくした表情を見せてくれました。

8 月は大学生が軽運動室で、缶つみ、パズル絵合わせ、ピンポン球運びリレーのミニゲーム大会を企画してくれました。事前準備から子ども達と一緒に関わることで、広い場所で伸び伸びとゲームをみんなで楽しむことができました。最終日には、浴衣の着付け講師の方にお願いして浴衣を着てシャボン玉をしたり、スーパーボールすくいをしたりして、夏祭りの雰囲気を楽しむことができました。

のばす会の寺子屋は、フリースクール、ハートルーム、寺子屋の案内を見て参加してくれる子といった、所属も学年も様々な子ども達が一緒に活動します。もうすぐ冬休みの寺子屋も予定しています。また、子ども達と一緒に活動できることを楽しみにしています。

スタッフ　伊藤　里香

＜スタッフ便り＞　脇田　裕恵

月１回の体育館の送迎とスポーツのスタッフとして今年で１０年になります。のばす会との関わりは、長男が中学１年の時に、不登校になり、どうしていいのか悩む中、養護教諭からすすめられてのばす会を訪れたのが始まりでした。初めは車で送迎していたのが、自転車で通うようになり元気になっていきました。スタッフのＳさんから数学を教えてもらい、数学のテストだけは受けに学校に行くときも。そんな息子も昼間定時制入学、退学、その後夜間定時制卒業、今は就職して５年目になります。のばす会はまずその子が元気になるのを待つ、そしてタイミングをみて、子どもたちの学ぶ意欲を手助けすることができる安心できる場所だと思います。私もバトミントンやドッジボールでつい本気になって楽しんでいます。ちょこんと落とす技には笑うしかありませんね。みんなが笑顔になって行くのを見られるのが嬉しいです。

生活に困っている人への支援の取り組み
―半田市生活困窮者支援団体活動費補助金50万円の交付が決定―

のばす会の参加者で最近ひとり親の家庭が増えてきて、特にコロナ禍の中で生活するのに大変そうです。これまでのばす会ではカップ麺やレトルト食品を準備したり、スタッフが家でご飯を炊き、冷凍にして保管しておいたりして、昼食を持って来ない子どもたちに食べてもらっていました。令和３年からは「日証協子どもサポート証券ネット」を介して各証券会社様からお米や食品、飲料水などの物品の支援を受けることができるようになりました。また、半田市福祉協議会様からも支援物資の提供を受けていて、今回ひとり親の子どもたちのためにお米 2 キロを 12 袋提供していただきました。支援物資はのばす会で使ったり、生活が苦しそうなひとり親のご家庭に支給したりしています。

この度、半田市の生活困窮者を支援する団体への活動費を補助する補助金 50 万円の交付が決定しました。備品の購入にも充てられますので、アイプラザ半田 105 号室に食料を保管し、電子レンジなどで簡単に調理できる場所にして、子どもたちに提供していきます。皆様のご支援で子どもたちのためにできることが増えてきました。ありがとうございます。

今後の予定と活動

のばす会の終業	12 月 23 日（金）
冬休み寺子屋	12 月 26 日（月）～ 28 日（水）13 時～ 16 時
のばす会始業	1 月 10 日（火）
第 3 回親の会座談会	1 月 22 日（日）13 時 30 分～（臨床心理士参加）
文化祭	1 月 28 日（土）13 時 30 分～　アイプラザ半田小ホール
のばす会修了	3 月 24 日（金）
卒業・修了を祝う会	3 月 25 日（土）10 時～　アイプラザ半田小ホール
春休み寺子屋の予定	3 月 27 日（月）～ 29 日（水）

書き損じはがき未使用の切手の回収事業

在籍した人たちや相談に来られた方たちへの講座等の案内やニュースレター等の通信費に充てています。

ご協力ありがとうございました。皆様の志が子どもたちの未来へとつながります。

＜寄付者の皆さま＞　令和 4 年 7 月～ (掲載可の方々です)　順不同　敬称略

石黒雄大、橋本和奏・英志、本多正純、鈴木知代、榊原友恵、九澤郁子、長谷川元洋、大野義雄、稲垣豊近藤嘉代子、石川まさ恵、加藤正三郎、福地春生、福地昌子、近藤直子、竹尾裕子、加藤浩康、高木早織新海美智子、内田榮一、柴川久仁子、高野尚子、黒木伊津子、山田ゆき、渡辺康一郎、小出由里子

＜ろうきん寄付システムの皆様＞令和 4 年 11 月末まで　＊ご寄付ありがとうございます。

＜団体寄付の皆様＞（株）ウイーダー、NPO 法人　ヒューマンコミュニティ、かとう助産院、（株）三菱 UFJ 銀行半田支店、（株）八洲建設

＜物品の寄付＞＊はがきや切手のご寄付がありました。　榊原紀美子、杉浦珠実

＊教材、文具、お菓子、遊具、お土産など多くの方からのご寄付ありがとうございました。

＊戸塚刺繍の作品など多数のご寄付がありました。　高野尚子

＜こどもサポート証券ネットによる支援物資＞

立花証券株式会社（レトルトカレー等 49 食、お米 5 キロ 1 袋）、岩井コスモ証券株式会社（1 回目―クリタのうまい水 1500m l　12 パック　2 回目―お米　3 キロ 1 袋、2 キロ 1 袋　1 キロ 1 袋）

岡三証券株式会社（お米 2 キロ 2 袋）

皆さんの寄付でのばす会は成り立っています。ご支援ください。

年会費・寄付金の振込先　□年会費 2,000 円　□寄付金 1 口 1,000 円から

①知多信用金庫　美原支店　口座番号　普通　2102161
名義：特定非営利活動法人　子どもたちの生きる力をのばすネットワーク
代表理事　伊藤　敦

②東海労働金庫　半田支店　口座番号　普通　4500549
名義：特定非営利活動法人　子どもたちの生きる力をのばすネットワーク
代表理事　伊藤　敦

③ゆうちょ銀行　振替口座　口座番号 00810-9-154412
加入名：特定非営利活動法人子どもたちの生きる力

スタッフ募集！

一緒に学習したり、遊んだりして、寄り添ってくれる人　週に 1 回でもかまいません。詳しくは下記までご連絡ください。

連絡先　（赤松）
080-1622-5717